

額安寺境内景観の変遷について 明治期の調査資料を中心に

吉田栄治郎

Changes in the Kakuan-ji Temple Cloister Based on the Meiji Documents

- はじめに
- ① 明治五年寺院調査から
 - ② 明治十二年寺院明細帳から
 - ③ 明治十六年古社寺調から
 - ④ 明治二十四年寺院明細帳から
- まとめにかえて

【論文要旨】

「額安寺伽藍並条理図」以降の額安寺の境内景観の変遷を確かめることができる記録は多くない。わずかに、嘉元三年（一三〇五）の「信空筆大塔供養願文案」や江戸時代中期に作成された「額安寺縁起」など若干のものが残されるだけである。また、絵図類についても、寛永十一年（一六三四）の「額安寺図」や保井芳太郎氏が採集した近世中後期の作成とされる境内図が見られる程度である。神仏分離期以降起こった寺経営の混乱が文書類の流出・散逸をもたらしたようであり、「額安寺伽藍並条理図」以降明治期までの額安寺境内景観の変遷を時系列的に追跡することは困難である。

ところが、政府・県によって明治期に実施された寺院調査報告書類には、いくつかの伽藍についてその変遷が報告されている。とりわけ、十六世紀初頭の赤沢朝経（沢蔵軒宗益）の大和侵攻による焼亡以降の変遷についての若干の新しい情報を提供してくれるとともに、調査時点での境内景観図が添付されているので比較検討ができる。

本報告ではそうした報告書によりながら、額安寺の由緒や境内伽藍の移動状況に関する記事を取り出し、十六世紀初頭の焼亡以降明治末期までの境内景観の変貌の経緯及び明治期の伽藍の移動について整理する。

本報告で使った明治期寺院調査報告書類は、明治五年（一八七二）七月の教部省達第八号による調査、明治十年（一八七七）の奈良県による境内外地調査、明治十二年（一八七九）の全国一斉に行われた寺院明細帳作成のための調査、明治十六年（一八八三）に大阪府で実施された古社寺由緒調査（当時奈良県は大阪府管轄）、明治二十四年（一八九一）に行われた寺院調査の際のそれぞれの報告書であり、他にその間に行われた何回かの調査報告書も援用した。